

⑪北海道地球温暖化対策推進計画

北海道では、平成 22 年に「北海道地球温暖化対策推進計画」を策定し、温室効果ガス排出抑制等の対策・施策として、①低炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換、②地域の特性を活かした環境にやさしいエネルギーの導入等、③二酸化炭素吸収源としての森林の整備・保全等の推進を重点施策として位置づけ、②では、道内の多様なエネルギー資源を有効活用した再生可能エネルギーの利用促進等に取り組むこととしている。令和 4 年 3 月には「北海道地球温暖化対策推進計画（第 3 次）」を改定し、2050 年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする”ゼロカーボン北海道”の実現を長期目標に、2030 年度の温室効果ガスの排出量を 2013 年度比で 48% (3,581 万 t-CO₂) 削減することを中期目標に掲げている。

表 動物調査の努力量（天塩遠別沿岸地区、北里牧場地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
哺乳類	目撃・フィールドサイン法	2人×5日×4回
	無人撮影法	1人×2日×4回
	トラップ法	2人×4日×3回
	バットディテクター(踏査)	2人×3日×3回
	コウモリ捕獲	3人×5日×1回
鳥類	一般鳥類	2人×4日×4回
	一般鳥類(夜間)	2人×3日×4回
	希少猛禽類	7人×3日×20回
	渡り鳥	7人×2日×12回
爬虫類・両生類	目撃・捕獲法	2人×5日×4回
昆虫類	任意採集、トラップ法	2人×7日×3回
魚類	捕獲法	2人×4日×2回
底生動物	定性採集法、定量採集法	2人×4日×2回

表 動物調査の努力量（遠別富士見地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
哺乳類	目撃・フィールドサイン法	2人×5日×4回
	無人撮影法	1人×2日×4回
	トラップ法	2人×3日×3回
	バットディテクター(踏査)	2人×3日×3回
	コウモリ捕獲	3人×4日×1回
鳥類	一般鳥類	2人×2日×4回
	一般鳥類(夜間)	2人×3日×4回
	希少猛禽類	7人×3日×20回
	渡り鳥	7人×2日×12回
爬虫類・両生類	目撃・捕獲法	2人×4日×4回
昆虫類	任意採集、トラップ法	2人×5日×3回
魚類	捕獲法	2人×4日×2回
底生動物	定性採集法、定量採集法	2人×4日×2回

表 動物調査の努力量（初山別大沢地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
哺乳類	目撃・フィールドサイン法	2人×4日×4回
	無人撮影法	1人×2日×4回
	トラップ法	2人×3日×3回
	バットディテクター(踏査)	2人×3日×3回
	コウモリ捕獲	3人×4日×1回
鳥類	一般鳥類	2人×2日×4回
	一般鳥類(夜間)	2人×3日×4回
	希少猛禽類	4人×3日×20回
	渡り鳥	4人×2日×12回
爬虫類・両生類	目撃・捕獲法	2人×4日×4回
昆虫類	任意採集、トラップ法	2人×5日×3回
魚類	捕獲法	2人×4日×2回
底生動物	定性採集法、定量採集法	2人×4日×2回



写真 S04-3 の調査地点からの視野（初山別大沢地区）

表 植物調査の努力量（天塩遠別沿岸地区、北里牧場地区）

項 目	調査項目	調査の人員構成
植物	任意観察法	4人×5日×3回
植生	植生図作成	2人×3日×1回
	植物社会学的植生調査法	2人×5日×1回
	外来植物分布調査	2人×4日×3回

表 植物調査の努力量（遠別富士見地区）

項 目	調査項目	調査の人員構成
植物	任意観察法	4人×4日×3回
植生	植生図作成	2人×3日×1回
	植物社会学的植生調査法	2人×4日×1回
	外来植物分布調査	2人×3日×3回

表 植物調査の努力量（初山別大沢地区）

項 目	調査項目	調査の人員構成
植物	任意観察法	4人×4日×3回
植生	植生図作成	2人×3日×1回
	植物社会学的植生調査法	2人×4日×1回
	外来植物分布調査	2人×3日×3回

表 生態系調査の努力量（天塩遠別沿岸地区、北里牧場地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
生態系上位性	オジロワシ生息状況	希少猛禽類調査に含む
	餌資源(魚類)	魚類調査に含む
	餌資源(エゾシカ)	哺乳類調査に含む
	餌資源(水鳥)	2人×3日×3回
生態系典型性	ウグイス生息状況	2人×4日×2回
	餌資源(昆虫類)	昆虫類調査に含む
	餌資源(植物種子)	3人×5日×1回

表 生態系調査の努力量（遠別富士見地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
生態系上位性	オジロワシ生息状況	希少猛禽類調査に含む
	餌資源(魚類)	魚類調査に含む
	餌資源(エゾシカ)	哺乳類調査に含む
	餌資源(水鳥)	2人×3日×3回
生態系典型性	ウグイス生息状況	2人×4日×2回
	餌資源(昆虫類)	昆虫類調査に含む
	餌資源(植物種子)	3人×5日×1回

表 生態系調査の努力量（初山別大沢地区）

項目	調査項目	調査の人員構成
生態系上位性	オジロワシ生息状況	希少猛禽類調査に含む
	餌資源(魚類)	魚類調査に含む
	餌資源(エゾシカ)	哺乳類調査に含む
	餌資源(水鳥)	2人×3日×3回
生態系典型性	ウグイス生息状況	2人×4日×2回
	餌資源(昆虫類)	昆虫類調査に含む
	餌資源(植物種子)	3人×5日×1回

表 6.2-46 景観調査地点の概要及び設定根拠

区分	No.	名称	概要	設定根拠	
主要な眺望点	TK-LT4	遠別町・天塩町共同斎場	利尻山、日本海	日本海、利尻山を一望できる。	風力発電機が垂直見込角1度以上で視認される可能性のある範囲内もしくはその周辺に位置し、不特定かつ多数の利用があり、主要な眺望点となっているため。
	E-LT1	道の駅えんべつ富士見 富士見ヶ丘公園 富士見ヶ丘公園展望台	利尻山、日本海	日本海、利尻山、街並みを一望できる。	
	E-LT2	遠別川河川公園	利尻山、遠別川	天気の良い日には夕日、利尻富士、公園に設置された「夕日と風のモニュメント」を一緒に見ることができる。	
	E-LT3	樹遠大橋	日本海、遠別の町並み	街並み、日本海、夕陽、朝焼け全てを一望できる山へと向かう橋。	
	E-LT4	金浦原生花園	利尻山、日本海	エゾカンゾウの花が一斉に咲き黄色い絨毯のようになり、海をへだてた利尻富士とのコントラストが見事。	
	S-LT1	みさき台公園	日本海、利尻島、天売島、焼尻島	みさき台公園(金毘羅岬)から見る夕日は絶景で、水平線には島々(利尻島、天売島、焼尻島)を見ることができる。	
身近な視点場	E-LM1	遠別町生涯学習センター	遠別町内のご意見を参考に不特定多数が利用する場所として選定した。	上記範囲内もしくはその周辺に位置し、地域の住民等の不特定かつ多数の利用があるため。	
	S-LM1	野外ステージ	初山別村内のご意見を参考に不特定多数が利用する場所として選定した。		
	S-LM2	ふれあいの里豊岬館	初山別村内のご意見を参考に不特定多数が利用する場所として選定した。		

注1：地点の設定にあたっては、配慮書の記載に加え、関係機関の意見を参考にした。

表 6.2-61 哺乳類（コウモリ類を除く）のトラップ法（シャーマントラップ）、無人撮影法、昆虫類のトラップ法（ベイトトラップ、ライトトラップ）調査地点の概要及び設定根拠

地区	地点	環境の概況	設定根拠
初山別大沢地区	S-T1	ササ群落	調査範囲のササ群落を代表とする地点として設置した。
	S-T2	伐跡群落	調査範囲の伐跡群落を代表とする地点として設置した。
	S-T3	ヨシクラス	調査範囲のヨシクラスを代表とする地点として設置した。
	S-T4	落葉広葉樹林	調査範囲の落葉広葉樹林を代表とする地点として設置した。
	S-T5	高茎草地	調査範囲の高茎草地を代表とする地点として設置した。
	S-T6	耕作放棄地	調査範囲の耕作放棄地を代表とする地点として設置した。
	S-T7	牧草地	調査範囲の牧草地を代表とする地点として設置した。
	S-T8	針葉樹林	調査範囲の針葉樹林を代表とする地点として設置した。
	S-T9	針広混交林	調査範囲の針広混交林を代表とする地点として設置した。